



TITLE:

# Algebraic Coding Theoryにおける 二,三の話題 (情報理論・実験計 画法における組合せ数学の諸問題研 究会報告集)

AUTHOR(S):

福田, 悌次郎

---

CITATION:

福田, 悌次郎. Algebraic Coding Theoryにおける二,三の話題 (情報理論・実験計画法にお  
ける組合せ数学の諸問題研究会報告集). 数理解析研究所講究録 1970, 82: 1-11

ISSUE DATE:

1970-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/108046>

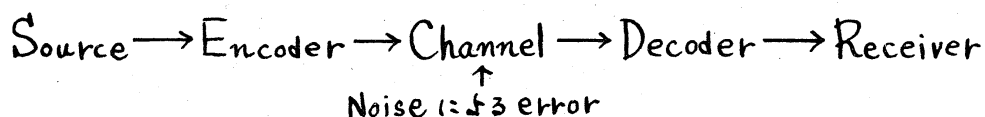
RIGHT:

# Algebraic Coding Theory

## における二, 三の話題

海上保安大 福田 悌次郎

### 1. Error correcting codes



有限体  $GF(q=p^a)$  上の  $n$  次元ベクトル空間  $V_n$  の一つの部分集合  $C$  を長さ  $n$  のブロック符号系という。  $q=2$  の場合が 2 元符号,  $q>2$  の場合が多元符号と呼ばれている。以下簡単のため, 主に対称 2 元符号について考える。

代数的符号化, すなわち, 雑音のある離散的通信路上の符号化の基本問題は, 符号系  $C$  の中の一つのベクトル (code word) が送信されたとき, 仮に途中で errors が起ったとしても, 受信されたベクトルから送られた元の code word を推定できる機構を持つように  $C$  を選定することである。

その機構とは次のようなものである。

$\forall x_i, x_j \in C$  に対して,  $x_i \neq x_j \implies R_{x_i} \cap R_{x_j} = \phi$

であるような  $V_n$  の部分集合  $R_{x_i}, R_{x_j}$  を定め,  $x_i$  に対する受信ベクトルを  $\bar{x}_i$  とするとき,  $\bar{x}_i \in R_{x_i}$  ならば送信された word は  $x_i$  であると推定する。この部分集合  $R_{x_i}$  を  $x_i$  に対する detection region といい。detection region の選定には次の二つの立場がある。

### (1) Minimum distance codes

$\forall x_i = (x_{i1}, x_{i2}, \dots, x_{in}), x_j = (x_{j1}, x_{j2}, \dots, x_{jn}) \in C$  に対して  $d(x_i, x_j) = \sum_{t=1}^n (x_{it} - x_{jt})$  を  $x_i$  と  $x_j$  との間の Hamming distance といい,  $x_i, x_j$  を  $C$  の中で動かしたときの距離の最小値  $d$  を  $C$  の minimum distance といい。

この場合,  $x$  に対する detection region として

$$R_x = \left\{ y \in V_n \mid d(x, y) \leq \left[ \frac{d-1}{2} \right]^* \right\}$$

すなわち, Hamming distance criterion の下で  $x$  に最も近いベクトルが<sup>の集合</sup>選ばれる訳で, maximum likelihood decoding と呼ばれている。

### (2) Linear (Group) codes

符号系  $C$  が  $V_n$  の  $k$  次元線形部分空間であるとき, Linear code または group code といい,  $(n, k)$  code と書く。

linear code に対する detection region 決定には次のような

---

\*  $[t]$  は Gauss 記号で  $t$  を越えない最大の整数を表わす。

Standard array が利用される。

$C$  を加群  $V_n$  の部分加群とみて

$$\begin{array}{lcl} x_0=0, & x_1, \dots, x_i, \dots, x_{2^k-1} & \longleftrightarrow C \\ g_1, & g_1+x_1, \dots, g_1+x_i, \dots, g_1+x_{2^k-1} & \longleftrightarrow g_1+C \\ g_2, & g_2+x_1, \dots, g_2+x_i, \dots, g_2+x_{2^k-1} & \longleftrightarrow g_2+C \\ \vdots & \vdots & \vdots \end{array}$$

を  $V_n$  の  $C$  による剰余類表とする。coset leader  $g_j$  がその coset 中 minimum weight <sup>\*</sup> のものとして選ばれているとき、この剰余類表は standard array と呼ばれる。

このとき、code word  $x$  に対する detection region として

$$R_x = \{ x, g_1+x, g_2+x, \dots \} \quad \text{を採用する。}$$

minimum distance codes では detection region の選定原理が与えられているだけで、具体的な複号化方式は示されておらず、又、linear codes に対する standard array による複号化表は  $n, k$  が大きいときは実用的でない。これらの混合型とでもいふべき立場に立つのが次のような codes である。

(3) Cyclic linear codes, Majority decodable codes

一つの linear code  $C$  は、

---

<sup>\*</sup>  $x_i = (x_{i1}, x_{i2}, \dots, x_{in})$  とするとき、 $w(x_i) = \sum_{l=1}^n x_{il}$  をベクトル  $x_i$  の Hamming weight という。

$$x = (x_1, x_2, \dots, x_n) \in C \implies y = (x_n, x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \in C$$

という条件を充すとき cyclic code と呼ばれる。この条件は  $\mathbb{F}_n$  を  $x^n - 1$  を法とする  $GF(2)$  上の多項式環と考えたとき、 $C$  が一つの ideal となすということと同値である。しかもこの場合  $C$  は単項 ideal であることからその構造は生成多項式によって完全に規定され、複号化は standard array 利用に比べると極めて簡単になる。その代表的 code として、Bose-Chaudhuri-Hocquenghem codes や修正 Reed-Muller codes などがある。

また cyclic codes とは別に、多数決論理によって比較的簡単に複号化可能な majority decodable codes の研究も進んでいる。代表的な例は Reed Muller codes や Finite geometry codes などである。

これら一連の有名な codes は単に複号化が簡単であるばかりでなく、minimum distance 或いはその下限が判っており多重誤り訂正が可能である [3]。

## 2. Maximal codes

code length  $n$  と minimum distance  $d$  が与えられたときこれら 2 つの parameters を持つ codes の中で words の個数が最大であるものを求めるという問題は一般に未解決である。

(I)  $A(n, d)$  について

$n, d$  を parameters とする maximal code の words の個数を  $A(n, d)$  で表わす。  $A(n, d)$  については種々の bounds が与えられているが、その正確な値はほとんど知られていない [2]。

実験計画法における対称釣合型不完備ブロック計画 (SBI BD) の存在問題とも関係する有名な問題の一つが次の予想である。

[Conjecture] すべての正整数  $t$  に対して

$$\left. \begin{array}{ll} \text{(i)} & A(4t-2, 2t) = 2t \\ \text{(ii)} & A(4t-1, 2t) = 4t \\ \text{(iii)} & A(4t, 2t) = 8t \end{array} \right\} \text{ が成立するであろう。}$$

この予想には次の諸定理が関係している。

[定理] (Plotkin, 1951)

$$\left. \begin{array}{ll} \text{(1)} \quad \text{(i)} & A(4t-2, 2t) \leq 2t \\ \text{(ii)} & A(4t-1, 2t) \leq 4t \\ \text{(iii)} & A(4t, 2t) \leq 8t \end{array} \right\} \text{ がすべての正整数 } t \text{ に対して成立する。}$$

$$(2) \quad A(4t, 2t) = 8t \implies \text{(i) と (ii) で等号が成立する}$$

$$(3) \quad 4t-1 \text{ が素数ならば } A(4t, 2t) = 8t。$$

[定理] (Bose and Shrikhande, 1959)

次の4命題は同等である。

$$(a) \quad A(4t, 2t) = 8t$$

$$(b) \quad A(4t-1, 2t) = 4t$$

(c)  $v = b = 4t-1$ ,  $r^* = k^* = 2t-1$ ,  $\lambda = t-1$  を parameters とする  
 $SIBD$  が存在する。

(d) order  $4t$  の Hadamard 行列  $H_{4t}$  が存在する。

[定理] (Brauer, 1953 及び Stanton and Sprott, 1958)

Hadamard 行列  $H_h$  が存在するための十分条件は次の通りである。

$$(i) \quad h = 2^k$$

$$(ii) \quad h = p^k + 1 \equiv 0 \pmod{4} ; \quad p \text{ は prime}$$

$$(iii) \quad h = h_1(p^k + 1) ; \quad h_1 \geq 2 \text{ は Hadamard 行列の order}$$

$$(iv) \quad h = h^*(h^* - 1) ; \quad h^* \text{ は (i) と (ii) の積}$$

$$(v) \quad h = 172$$

$$(vi) \quad h = h^*(h^* + 3) ; \quad h^* \text{ と } h^* + 4 \text{ は共に (i) と (ii) の積}$$

$$(vii) \quad h = h_1 h_2 (p^k + 1) p^k ; \quad h_1 \geq 2, h_2 \geq 2 \text{ は共に Hadamard 行列の order}$$

$$(viii) \quad h = h_1 h_2 \Delta(\Delta + 3) ; \quad h_1 \geq 2, h_2 \geq 2 \text{ は共に Hadamard 行列の order}$$

$$\Delta, \Delta + 4 \text{ は共に } p^k + 1 \text{ の形}$$

$$(ix) \quad h = (q+1)^2 ; \quad q \text{ と } q+2 \text{ は共に prime または prime power}$$

$$(x) \quad h \text{ は (i) } \sim \text{(ix) の積。}$$

(註) M. Hall ; Combinatorial Theory, Ginn and Company

1967によると, 上記の他  $h=92$ ,  $h=116$  の場合も存在する。

(2)  $B(n, d)$  について

$n, d$  を parameters とする maximal linear code の words の個数を  $B(n, d)$  で表わす。

$d=1, d=2$  のときは自明で  $B(n, 1) = 2^n, B(n, 2) = 2^{n-1}$  である。

$d=3$  の場合は次の2つの定理によって完全に解決されている。

[定理] (Hamming, 1950)

$$n = 2^m - 1 \text{ ならば } B(n, 3) = A(n, 3) = 2^{n-m}$$

[定理] (Shapiro and Slotnick, 1959)

$$n \neq 2^m - 1 \text{ ならば } 2B(n, 3) = B(n+1, 3)$$

$d=4$  の場合も, Hamming の定理:  $B(n-1, 2k-1) = B(n, 2k)$  を使えば,  $d=3$  の結果を利用することにより, すべての  $n$  に対して  $B(n, 4)$  の値を求めることができる。

$d > 4$  の場合については一般に未解決である[2]。この問題に対しては次の2通りのアプローチが考えられる。

(1°) Generator matrix によるアプローチ

問題を次のように formulate する

「 $k, d$  が与えられたとき,  $d$  を minimum distance,  $k$  を information symbols の個数とする linear code の code length  $n$  の最小値はいくらか？」



$n$  に対する下限は次の定理により与えられている。

[定理] (Griesmer, 1960) [1]

$k, d$  が与えられたとき, 一つの  $(n, k)$  code が minimum distance  $d$  を持つならば

$$n \geq d + d_1 + d_2 + \cdots + d_{k-1}$$

$$\text{ここに } d_1 = \left\lfloor \frac{d+1}{2} \right\rfloor, \quad d_{i+1} = \left\lfloor \frac{d_i+1}{2} \right\rfloor \quad (i=1, 2, \dots, k-2).$$

さて,  $G$  を一つの  $(n, k)$  code の generator matrix とすると,  $G$  の列ベクトルは  $GF(2)$  上の  $(k-1)$  次元射影空間  $PG(k-1, 2)$  の点の座標表現とみなすことができる。よって  $G$  はこの射影空間の点の全体から成る  $k \times (2^k - 1)$  行列  $G_0$  の部分集合である。

$d$  を指定したとき,  $G_0$  の部分集合である generator matrix  $G$  はどのような性質を有しているであろうか?

これに対する一つの解答が次の定理である。

[定理] (Solomon and Stiffler, 1965) [4]

(i)  $1 \leq l_i \leq k-1, \sum_{i=1}^s l_i \leq k$  を充す  $s$  個の正整数  $\{l_i\}$  に対して, 互に素な  $s$  個の  $(l_i-1)$ -flats を除いて得られる行列  $G$  を generator matrix とする  $(2^k - 1 - \sum_{i=1}^s (2^{l_i} - 1), k)$  code は minimum distance  $d = 2^{k-1} - \sum_{i=1}^s 2^{l_i-1}$  を持つ。

(ii) (i)において  $l_i \neq l_j$  ( $i \neq j$ ) ならば, この code は code length  $n$  が Griesmer bound Theorem における下限を

attainしているという意味で optimal である。つまり, maximal code である。

(例1)  $\delta=1$  のときが MacDonal code である。

特に  $\ell=k-1$  とすると  $B(2^{k-1}, 2^{k-2}) = 2^k$  を得る。

これは  $A(4t, 2t) = 8t$  に対応しており,  $k=4t=2^{k-1}$  の場合は MacDonal code 或いは 1st order Reed-Muller code などの linear code で, この parameters を持つ maximal code が得られることを示している。

(例2)  $\delta=1, \ell=1$  とすると  $B(2^{k-2}, 2^{k-1}-1) = 2^k$

これから Hamming の定理  $B(n-1, 2^{k-1}) = B(n, 2^k)$  を使って  $B(2^{k-1}-1, 2^{k-1}) = 2^k$  を得る。これは  $A(4t-1, 2t) = 4t$  に対応しており,  $k=4t=2^k$  の場合は full matrix  $G_0$  を generator matrix とする equidistant linear code で maximal code が得られることを示している。

(註) Hamming  $(2^m-1, 2^m-1-m)$  code は maximal linear code であるが, code length  $n=2^m-1$  が Griesmer lower bound を attain するのは  $m=3$  の場合だけで,  $m>3$  ならばこの下限より大きくなる。

(2) Parity check matrix によるアプローチ

$n_0$  を code length,  $r$  を redundancy,  $d_0$  を minimum

distance とする一つの maximal code  $C_0$  が存在したとする。  
 この code の parity check matrix  $H_0$  から列ベクトルを適当に  
 落すことによって code length  $n_0$  を減らす一方, minimum  
 distance  $d_0$  を大きくして行く立場である。

(例3) minimum distance 4 の modified Hamming code.

Hamming  $(2^r-1, 2^r-1-r)$  code の parity check matrix  $H_0$  の列  
 ベクトルを  $PG(r-1, 2)$  の点とみなすと次の Lemma が成り立つ。

[Lemma]  $H_0$  の列ベクトルの一つの部分集合を  $H$  とし,  $H$  を  
 parity check matrix とする code  $C$  が minimum distance 4  
 を持つための必要十分条件は,  $H$  が  $PG(r-1, 2)$  の直線を一本も  
 含まないことである。

この条件は, 一つの超平面  $\Pi$  を  $H_0$  から除いた部分集合を  $H$   
 として選ぶことにより達成される。 この場合

$$n = 2^r - 1 - (2^{r-1} - 1) = 2^{r-1}, \quad k = 2^{r-1} - r, \quad d = 4$$

(具体例)  $r=4$  の場合

$$H_0 = \begin{array}{|cccccccc|cccc|} \hline 1 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ \hline \end{array}$$

$$H = \begin{array}{|cccc|cccc|} \hline 0 & 1 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ \hline \end{array}$$

$$\Pi = \begin{array}{|cccccc|c|} \hline 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 1 \\ \hline \end{array}$$

## 参 考 文 献

- [1] Griesmer, J.H. (1960): A bound for error correcting codes.  
IBM J. Res. Develop. 4, No. 5.
- [2] Joshi, D.D. (1963): Coding theory ( Summer course for statisticians). Research and Training School, Indian.  
Statist. Inst.
- [3] Peterson, W.W. (1961): Error correcting codes. MIT Press  
and Wiley, New York.
- [4] Solomon, G. and Stiffler, J.J. (1965): Algebraically punctured  
cyclic codes. Information and Control 8, 170-179.